

令和5年11月17日

陳情第13号

タウンニュースへの新型コロナワクチン関連情報の広告出稿の再検討を求める陳情

タウンニュースへの新型コロナワクチン関連情報の広告出稿の再検討を求める陳情

【陳情趣旨】

令和2年初頭に顕在化した新型コロナウイルスの感染状況も、現在は一定の収束を見るに至り、民心も落ち着きを取り戻しつつあります。飲酒を伴う外食にも制限がなくなりました。変異を続けるコロナウイルスに、現在はどのような変異型で、いかなる名称が付与されているかなど関心を向ける人も稀な存在となっているようです。

いまだに慎重な対応をしている方がおられるのも承知しておりますが、エネルギー危機、食料危機を想起させる武力紛争が他国とはいえ続けて発生し、沈静化の様子が見いだせない中、我が国内では諸物価高騰の折、経済活動を優先させねばならない現実もあります。

タウンニュースという媒体を通じて、コロナワクチンの関連情報を広報してきたことは理解いたしておりますが、緊急性が求められていた時期と異なり、現在はワクチン接種を必要と判断する人が小田原市のコールセンターに問合せすれば事足りるように思います。

小田原市の広報紙「広報小田原」は、令和5年4月1日現在70.3%の加入率を維持する自治会経由で毎月1日に配布されています。この広報紙は市内のコンビニエンスストア等でも入手することができます。一方、毎週土曜日発行され、新聞折込を主たる配布手段とするタウンニュースは、新聞購読世帯の低下とともにその配布手段を郵便局などにも拡大しています。利用目的によっては有効な広報媒体ではありますが、今や緊急性もそれほどなくなったコロナワクチン関連情報を広報する手段としては再検討されるべきです。

コロナワクチン関連情報が引き続き必要とあらば、広報紙「広報小田原」で紙面を割いて広報すれば十分なのではないかと思います。

【陳情項目】

小田原市議会として、小田原市長に対し、タウンニュースへのコロナワクチン関連情報の広告出稿を再検討するよう求めること。

令和5年11月17日

小田原市議会議員

大川 裕 様

提出者

小田原市

加藤 哲男 ㊞